

IV-391

京都の観光地イメージと周遊行動パターンとの
関連性に関する基礎分析

山梨大学工学部
システム科学研究所
○ 山梨大学工学部

正会員 西井和夫
正会員 棚橋美佐緒
学生員 服部純司

1. はじめに

本研究では、わが国の代表的な都市型観光地である京都を取り上げ、観光地としてのイメージの把握と観光客が実際に動いた周遊行動との関連性に着目する。このため、イメージ調査と周遊行動調査の両データを用いることにし、観光客にとっての観光地イメージを規定する構成地物間のイメージ連結図と観光スポット間のトリップ連関図との比較分析を目的とする。これらの調査の前提条件としては、京都をいくつかのエリアごとに眺めることとし、洛中、洛北、洛南、洛西、洛東の5エリアに分けた。イメージ調査は構成地物の選定を行うための予備調査（1996.10）を経て実施（1996.11）され、各エリアで約30個構成地物の類似度データを得ている。一方、周遊行動調査は、1996.11に観光客を対象に行われた、京都休日交通行動調査から得たもので有効サンプルは約6585である。なお、この調査は、個人属性、旅行の属性、京都市内の移動に関するトリップチェーンの項目から構成されている。

2. イメージ連結図の考察

構成地物間のイメージの連結性を視覚的に捉えるためのイメージ連結図は、次式で定義される連想確率を用いて構成地物の地理的な配置パターン上でその連結関係を示したものである。

$$R_{ik} = N_{ik} / \sum_{i=1}^I \sum_{k=1}^{I-1} N_{ik} \quad (i \neq k, i=1, 2, \dots, I-1)$$

ただし、 $N_{ii}=0$

N_{ik} ；類似度データにおいて、地物 i に対して地物 k が他の地物と比べて最も似ていると判断しているサンプル数

洛西エリアのイメージに着目すると、太線のアークで結ばれている地物は嵐山地区に関係するものが多く、「渡月橋-京福電鉄」、「嵐山-渡月橋」があり、さらに「トロッコ列車-保津川下り」「落柿舎-嵯峨野」である。これに

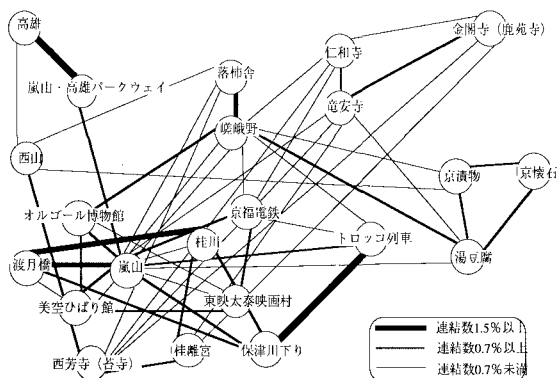


図-1 洛西エリアのイメージ連結図

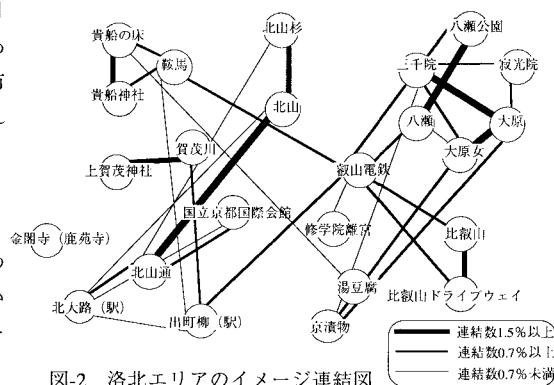


図-2 洛北エリアのイメージ連結図

より洛西エリアにおけるイメージ連結パターンは、嵐山地区内とその周辺の代表的な地物の結びつきが主要な連月結関係をもち、またそれ以外にも多くの地物との連結関係を有することが特徴であり、イメージの多様な関係を読み取ることができるといえる。

一方、洛北エリアのイメージに着目すると、太線のアークは「大原周辺」、「鞍馬周辺」や「北山」、「北山杉」、「北山通」等にみられ、それぞれ比較的独立したイメージの集塊（かたまり）として存在していることがわかる。言い換えれば、「大原」、「鞍馬」、「北山」以外の地物間ではほとんどイメージ連結性は見られない。

キーワード：イメージ分析、周遊行動

連絡先：〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-11 山梨大学工学部
土木環境工学科 tel & fax 0552-20-8533

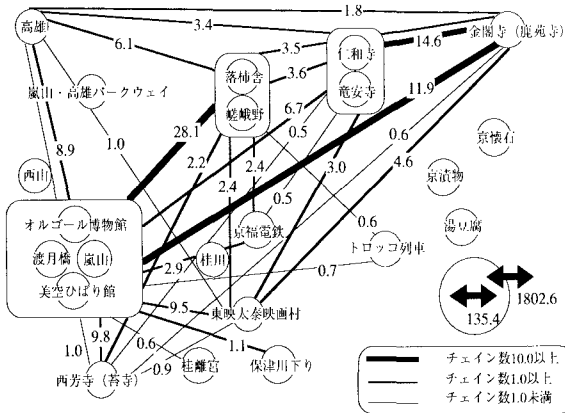


図-3 洛西エリアのトリップ連関図

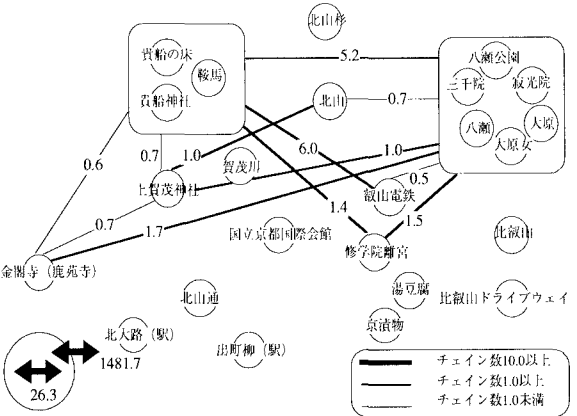


図-4 洛北エリアのトリップ連関図

3. トリップ連関図の考察

観光客の周遊行動を把握するためのトリップ連関図は、まず、調査によって得られた各エリアの関連チェーンを抜き出し、そこで抜き出した1トリップチェーン内の観光スポットのデータに対してそれぞれ1チェーンの生起に対する寄与度を考慮した。この寄与度は、1チェーン内の観光スポット及びベース（ $n+1$ 個）から2つを選ぶときの組合せ数（ $n+1C2$ ）の逆数として定義される。この寄与度を考慮した各エリアごとに集計することにより、トリップ連関図を作成した。

洛西エリアのトリップ連関図に着目すると、「嵐山」に関連する主なチェーンは、嵐山周辺-嵯峨野（28.1）、嵐山周辺-金閣寺（11.9）、嵐山周辺-西芳寺（9.8）、嵐山周辺-東映太秦映画村（9.5）、嵐山周辺-高雄（8.9）、嵐山周辺-仁和寺（6.7）、嵐山周辺-京福電鉄（2.9）、嵐山周辺-保津川下り（1.1）であり、洛西エリアのトリップ連関図中で最も大きい。したがって、観光客にとって「嵐山周辺」は、やはり洛西エリア内の周遊行動の拠点として位置づけられるものとみなすことができる。「嵐山」の他に目立つ地物としては、「嵯峨野」（チェーン数の合計48.9）「金閣寺」（チェーン数の合計37.0）が挙げられ、当該エリアの多様な観光スポット間のつながりがみられる。

次に、洛北エリアのトリップ連関図に着目すると、本エリアは洛西エリアと比べてチェーン数が10.0以上を示す結びつきは存在せず、域内のスポット間の結びつきは小さいことが特徴的である。その中で、洛北エリア内の中心的な観光スポットとしては以下の2つのスポットがある。「鞍馬周辺」では、鞍馬周辺-叡山電鉄（6.0）、鞍馬周辺-大原周辺（5.2）、鞍馬周辺-修学院離宮（1.4）の結びつきがある。また、「大原周辺」では、大原周辺-鞍馬周辺（5.2）、大原周辺-金閣寺（1.7）、大原周辺-修

学院離宮（1.5）、大原周辺-上賀茂神社（1.0）の結びつきがある。

4. トリップ連関図とイメージ連結図の比較分析

ここで、洛西エリアと洛北エリアにおけるイメージ連結図とトリップ連関図を比較する。まず、洛西エリアにおいて、トリップ連関図では「金閣寺-嵐山周辺」「金閣寺-嵯峨野周辺」「金閣寺-仁和寺・竜安寺」の結びつきが突出していて、その他の地物はそれほど強い結びつきは見られないのに対して、イメージ連結図では「嵐山」とその周辺との連結性がみられ、「金閣寺-嵯峨野周辺」「金閣寺-仁和寺・竜安寺」「金閣寺-嵐山周辺」の結びつきは突出しているわけではない。

一方、洛北エリアにおけるトリップ連関図で、「鞍馬周辺-大原周辺」「大原周辺-修学院離宮」のチェーン数が比較的多いのに対して、イメージ連結図では「大原周辺」「修学院離宮」及び「鞍馬周辺」は全く独立的である。また、「大原周辺」と「鞍馬周辺」と「北山」以外ではほとんどイメージ連結性は見られなかったのに対して、トリップ連関図ではトリップ連関が分散的であった。さらに、「大原周辺」関連のトリップ連関はいくつか存在しているものの、イメージ連結図のそれとは異なる地物と結びついていることがわかった。

なお、紙面の都合上、他エリア間の比較考察結果については、講演時に発表する予定である。

（参考文献）

- 1) 西井和夫、川崎雅史、棚橋美佐緒、酒井弘：京都観光イメージ構造の空間布置に関する基礎分析、土木計画学研究・講演集、No20 (1)、pp.351-354、1997